

高校生らアイデア多彩

秋田市 身近な疑問、解決策発表



高校生らが身近な疑問や課題の解決策などを発表した成果報告会

んは、身近だが注目されることとの少ない画びように着目。教室の壁や市役所の掲示板に刺さったまま放置される画び

ようが多いことに気付き、画びよりのデザインを工夫することで片付けを促すアイデアについて報告した。

一例として、画びよりの頭部が都道府県の形になっており、47種類全てを組み合わせると日本列島の形になる製品を提案。「全てそろえようと

積極的に片付けるようになるのではなか」と述べた。

このほか、菓子袋や高校の制服のデザインなど、身近なテーマに関して調査した成果を各チームが報告した。

身近な疑問や地域課題の解決に向けた若者の取り組みを支援する県主催事業「若者と地域をつなぐプロジェクト事業」の参加者による成果報告会が10日、秋田市中通のAB S秋田放送多目的ホールで開

湯沢市の湯沢翔北高校2年の高橋夕七さんと林崎絵麻さ

事業は一般社団法人ドチャベンジャーズ（五城目町）が県の委託を受けて実施。昨年8月からチームごとにテーマを定め、県の支援を受けながら地域住民への取材やアンケートなどを続けてきた。

（佐藤傳将）